答　辞

寒さも緩み、柔らかな日差しに春を感じる季節となりました。

本日は、私たち卒業生のためにこのように盛大な卒業式を執り行ってくださり、誠にありがとうございます。ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、並びに西田学長をはじめ諸先生方に、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

期待と不安を胸に入学した日から今日に至るまで、琉球大学の一員として過ごした時間は、私たちにかけがえのない学びや経験を与え、数々の素晴らしい出会いをもたらしました。本学で積み重ねてきた出来事は、これからの私たちを支える大切なものになると感じています。

琉球大学での学びは実に多岐にわたるものでしたが、私にとって特に印象深いことは卒業研究の実験でした。自分で決めたテーマについて調査し、理解を深め、プログラムを記述しましたが、問題なく動作することはなく、繰り返し間違いを見つける度に修正する必要がありました。さらに、動作させることができたとしても自身の考えとは異なる挙動になることもあり、原因追及は非常に困難なものでした。このような状況でも粘り強く取り組み、成果を出すことができた時の達成感はとても大きなものでした。この経験から、必要なものを自身で考え、学び、粘り強く取り組む姿勢の重要性を学びました。

もう一つ重要だと自覚したことは、私たち学生が主体的に学ぶことの重要性でした。大学生活では、自由の幅が広がることにより、自分自身で選択する機会を数多く経験しました。私たちが入学した当初からコロナウイルスの蔓延に伴い、講義の大半が遠隔に変更されたことで、学生ひとりひとりが自分で考え、決定する場面に直面したと思います。先のことがわからない不安の中で、友人と協力しながら乗り越えていくことで、主体性をもって学び続けることの重要性とその困難さを自覚することができました。

私たちは来月から新しい環境で、それぞれの道を歩み始めます。本学で培った知識や経験を活かし、社会へ貢献できるよう、挑戦と成長を続けていきたいと考えています。

琉球大学での充実した大学生活を送ることができたのは、ご指導くださった諸先生方、勉学に取り組む環境を整えてくださった大学職員の皆様のおかげです。また、ともに学び合った友人、今まで見守り育ててくれた家族に、心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりますが、皆様の益々のご活躍と、琉球大学の一層のご発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

令和六年三月十九日

卒業生代表

工学部工学科電気システム工学コース

　　　　　　　　具志堅　太成